

「穴」

石井友人、榎倉冴香、地主麻衣子、高石晃、榊田倫広

地面に「穴」を穿つというアナクロニズムから出発し、自らの美学的経験以前に広がる原風景との接触を試みる。「穴」という空間からテーマ化され制作された、映像ドキュメント・絵画・資料・テキストによる展覧会。

会場：スペース23°C

会期：2015年 4月3日（金）－4月26日（日）

12:00－19:00（金・土・日のみ開廊）

※オープニングは4月3日（金）18:00－20:00



足下の地面と自分の接触面のある一点に圧力を掛けてみる。すると、そこにあった土砂は地表から剥ぎ取られ、別の場所へと移される。地下には剥ぎ取られた分の空洞が発生し、その空洞がある一定以上の大きさを超えると「穴」と呼べそうなものが出る。

「穴」は形態として空洞を有するという意味で空虚なものだが、同時に「穴」はそれ自体ではなく周りとの接面において形成されている。地面と自分との接触は「穴」という空間を生み出すが、「穴」自体は空虚であり、そこには穴のない「」が穿たれている。

「」という空間に自らを埋没させると、地層の壁を確認出来る。そこには物質として時間の堆積があり、私たちはその堆積に直に触れることが出来る。そして、突如として私たちが壁に触れると思っていた状況が、そうではなく、壁が私たちに触れている状況であると感じられ始める。驚くべきことに、私たちが壁を見ている筈なのに、壁が私たちを見つめ返しているのだ。

「」という空間の空虚さが反転し、削り取られた壁と同じように、私たちは裸に剥き出しにされている。そこには何故か生の身体と空間の艶めかしい対峙が出現している。堆積していた時間たちは掘り起こされ、今までとは逆行する形で地上に放り出されている。静かな夢の活動が、突然の目覚めと共にバラバラに砕かれ、攪拌されていくかのように。

穴は媒体を失い、私たちが媒体そのものとして成り変わったかのようだ。

私たちの現在と過去とが思いもよらない形で出会い始めている。

地中から放りだされた土砂のように、私たちの身体も地上に投げ出されていた。

CV

・石井友人ー1981年東京都生まれ。2006年武蔵野美術大学大学院油絵科修了。
主な展覧会に、2015年「大和コレクションVII デイドリーム つむがれた記憶」（沖縄県立博物館・美術館）、2014年「パーブルーム大学II」（熊本市現代美術館）、2011年「複合回路ー認識の境界」（Gallery αM）<http://www.tomohitoishii.com>

・榎倉冴香ー1982年東京都生まれ。2005年多摩美術大学油絵科卒業。
主な展覧会に、2014年「榎倉冴香 展」（高島屋NEXT）、2013年「eyes and glasses」（スプラウト・キュレーション）、「あなたに会わなくなってから」（H.P.FRANCE WINDOW GALLERY）<http://www.enokura.com>

・地主麻衣子ー1984年神奈川県生まれ。2010年多摩美術大学大学院絵画専攻修了。
主な展覧会／上映会に、2015年「おおきな口、ちいさな手 もしくは ちいさな口、おおきな手」（Art Center Ongoing）2014年「父と母」（Talion Gallery）、「福岡インディペンデント映画祭2014」（福岡アジア美術館）<http://maikojinushi.com>

・高石晃ー1985年神奈川県生まれ。2010年武蔵野美術大学大学院油絵科修了。
主な展覧会に、2014年「ignore your perspective 27」（Kodama Gallery）、2013年「シャンポリオンのような人」（Kodama Gallery）、2011年「VOCA展 2011」（上野の森美術館）<http://www.akiratakaishi.com>

・柁田倫広ー1982年東京都生まれ。早稲田大学大学院文学研究科美術史学コース修了。
現在、東京国立近代美術館研究員。主な論文に、2013年「うわさのベーコンー日本におけるフランス・ベーコン受容のためのノート」（フランス・ベーコン展 展覧会カタログ）2012年「政治の絵画から絵画の政治へー中村宏の場合」（実験場1950s）



※多摩丘陵のと或る地点に穴を穿つ、メンバーたち。
東京都郊外の多摩ニュータウンは石井・柁田の生まれ育った土地でもある。
65年に都市計画が始まった同地であるが、開発から既に半世紀が経ち高齢化・建物の経年劣化問題などが指摘される。現在も人口は増加している。地盤は非常に強固であり、リスクマネージメントの観点から、近年はデータベースの管理スペースが續々建設されている。

※小豆島の旧榎倉省吾アトリエ、通称

「梅ノ小屋」と榎倉冴香。榎倉は家族と共に、毎年夏になると祖父・省吾のアトリエを訪れていた。

親子3代続く芸術家の系譜ではあるが、榎倉が幼い頃に父・祖父共に他界していた為、直接に芸術上の交流はなかった。

およそ20年ぶりに訪れる祖父のアトリエに滞在し、榎倉は「穴」を掘り進めた。



スペース23°C

アクセス：東急大井町線、等々力駅下車、徒歩5分。

Web：<http://space23c.com>

Tel: 03-3701-5272

本展覧会「穴」についてのお問い合わせは、担当石井 ishii.tomohito@gmail.comまでご連絡下さい。

